

長寿医療研究開発費 2021年度 総括研究報告

当事者と家族介護者に対するストレスマネジメント手法の開発研究
(20-16)

主任研究者 竹内 さやか 国立長寿医療研究センター 看護部（看護師）

研究要旨

認知症施策大綱には、認知症の人（以下、当事者）や家族介護者（以下、家族）が安心して生活を送れるような支援が明記された。大綱には当事者の家族の介護負担軽減の指針として、介護休業等制度の周知、認知症カフェの普及、診断後からの家族教室や家族同士のピア活動の推進が挙げられている。

しかし、COVID-19の感染が拡大し、感染対策に伴う三密（密閉、密集、密接）回避に伴って、社会的つながりの維持が困難になっている。特に当事者や家族は、介護保険制度の通所系サービスの利用を控え、インフォーマルな集い（認知症カフェ、家族介護者の会、食事会等）の不開催により、外出機会が大幅に減少している。このような状態は当事者、家族ともに孤立・孤独を助長しQOL悪化が懸念される。そのため、当事者や家族が、安心、安全に社会的つながりを維持する方法が求められている。

本研究では、Society5.0の中核である「ICT」を用い、当事者や家族の孤立・孤独、それに伴うストレス、以上の社会的課題の軽減、予防手法、介入した結果を評価する尺度の開発を行う。

主任研究者

竹内 さやか 国立長寿医療研究センター 看護部（看護師）

分担研究者

清家 理 京都大学こころの未来研究センター（講師）

A. 研究目的

本研究では、ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究（研究①）と、研究①で実施する介入の効果を評価する尺度開発（研究②）をおこなう。以上の2研究により、当事者と家族に対する効果的なストレスマネジメント手法を明らかにする。

B. 研究方法

研究① ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

対面型家族支援とICT環境下の集団支援の非劣性試験を行う。ICTでの集団支援を体験することで、ICTへの親和性が高まるか従来型(直接対面)と同程度の効果が得られるか評価する。院内にて、スタッフが操作性やセキュリティをサポートした上で実施ICT介入群（オンラインにて、認知症介護者交流会）と、従来型支援群(直接対面型の認知症介護者交流会)の非劣性試験を計画した。

研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

本研究は、前向き量的観察研究である。国立長寿医療研究センターに通院中の当事者の家族介護者でかつ在宅介護を実施中の20歳以上の当事者の家族を研究対象とした。主要評価項目は、認知症介護コンディション評価スケール（以下、新尺度）の信頼性である。

統計解析方法だが、外的妥当性の評価は、新尺度の内的妥当性の評価（以下、先行研究）にて解析した内容について、本研究集団にて再度同様の解析（一貫性[クロンバックの α]、外的基準[DBD scale等]との基準連関妥当性）を実施し、先行研究と同程度の結果が得られるかを検討することとした。また、再現性（安定性）の評価は、再テスト法にて評価を行うこととした。

（倫理面への配慮）

本研究は、利益相反・倫理委員会へ申請し、承認を受けて実施した。また、調査で取得したデータには個人情報が含まれるため、連結可能な匿名化状態でデータベース化した。また、匿名化データはデータファイルをパスワード管理したうえで、外部記憶装置に保存し、主任研究者および分担研究者が、鍵のかかる保管庫にて一括管理した。

研究① ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

本研究は、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則り計画した。（また、研究対象者に対し、同意説明文書を作成し、研究主旨と方法の説明し、そして、参加者が内容をよく理解したことを確認の上で、本調査へ自由意志で参加されるよう計画した。）

研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

本研究は、「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省，平成 20 年 7 月 31 日全部改正）、「疫学研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省，平成 20 年 12 月 1 日一部改正）に則り、研究を実施した。また、研究対象者に対し、別に定める同意説明文書に基づいて、研究主旨と方法の説明を実施した。そして、参加者が内容をよく理解したことを確認の上で、本調査への参加について、自由意思による同意を文書で得た。

C. 研究結果

研究① ICT を用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

直接介入群と自宅での ICT 介入群の非劣性として研究計画を作成し、倫理・利益相反委員会に諮り、条件付き承認となった。長寿医療研究開発費の中間報告を受けて、2021 年度は申請を取りやめ、新規開発費を申請しアンケートの再調査を実施することとした。

研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

Process4. 44 項目で構成される新尺度の外的妥当性・再現性検証の結果

初回調査および 2 週間後の再調査に参加した者 110 名のうち、データ欠損がない者 104 名（94.5%）を分析対象とした。まず、新尺度合計スコアと既存尺度の相関分析による妥当性評価を実施した結果、外的妥当性、再現性評価ともに、CES-D、介護評価（否定的）、J-ZBI で相関（いずれも $r = 0.45$ 以上）が確認された。クロンバック α による内的整合性評価では、外的妥当性：0.861、再現性評価：0.887 であった。また再テスト法による再現性評価（級内相関係数）では、0.866 であった。級内相関係数は 0.7 が目安であるため、本研究では強い相関が確認された。

Process5. 4 の外的妥当性検証の結果を用いた短縮版の試作化および内的妥当性検証の結果

試作化および内的妥当性の検証には、Process4 の外的妥当性の検証結果を用いた。各設問に対して、Kaiser の正規化を伴うプロマックス回転法を用いた因子分析を行った。この時、因子抽出法は主因子法を採用した。その結果、13 因子が抽出され、短縮版の構成候補となった。（クロンバック α による内的整合性評価：0.570）

以上により、13 項目で構成される新尺度 short ver. の外的妥当性・再現性検証研究を実施するため、倫理・利益相反審査（迅速審査）に諮った。審査後、国立長寿医療研究センターもの忘れセンター外来通院中の軽度認知障害（MCI）の人および認知症の人在宅介護中の家族 100 名を研究対象としてリクルートし、2022 年 5 月現在、分析のためのデータベースを作成中である。

D. 考察と結論

研究① ICT を用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

2020 年の当院家族教室修了された家族介護者を対象とした ICT の実態調査より ICT に対する親和性を明らかにできたが、対象者は平均年齢 69.2 ± 9.3 とやや高齢の対象者で ICT の親和性が低い結果となった。そのため、全国の働き世代を対象に ICT を用いた家族の集団支援のニーズを再調査したいと考えた。2022 年度から新規開発費（22-23）の分担研究者として研究計画を行っている。

研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

以上の結果より、44 項目で構成される新尺度の外的妥当性、再現性が確認された。しかし、44 項目では詳細な介護環境の把握は期待できるが、項目の多さに伴う測定時間の長さ等、被験者、テスターへの負荷が否めない。そのため、44 項目の外的妥当性検証の結果を用い、因子分析の結果 13 因子で構成されるショートバージョンの内的整合性が確認された。ショートバージョンの開発に関わるデータ収集が終わったため、解析後、内的整合性評価、再現性評価をおこなう。

E. 健康危険情報

なし

E. 研究発表

1 : 論文発表

(国内誌 6 件、国際誌 4 件)

1. M.Komori, K.Takemura, Y.Minoura, A. Uchida, R.Iida, **A.Seike**, and Y. Uchida. Revealing structure of social networks through a seven-month survey using wearable device: A case study from a farming community in Japan. Journal of Computational Social Science.2022 (In press)
2. **清家 理**. 認知症の人の介護者支援の展望. 医学のあゆみ Vol.279 (5) , 407- 414.2021
3. **清家 理**. 認知症家族介護者における Well-being 獲得とは. 日本老年医学会雑誌.2021.58(3).353-362.
4. **A.Seike**, C.Sumigaki, **S.Takeuchi**. J.Hagihara, N.Mizuno, C.Becker, K.Toba and T.Sakurai. Effectiveness of Group based Education for Informal Caregivers of People with Dementia in Japan: a randomized controlled study. Geriatric and Gerontology International.2021 Jul; 21(7):561-567.
5. **Aya Seike**, **S.Takeuchi**. Team work skills. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge Publishing, 2021. 25-37.

6. **Aya Seike**. Self-awareness. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge Publishing, 2021. 89-100.
7. 清家 理. 第Ⅲ章 C-1 相談を通じた治療・ケアへの参画. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. 南江堂, p.171- p.173, 2021
8. 清家 理. 第Ⅲ章 C-3 家族介護者の学びあいを通じた治療・ケアへの参画: 家族教室. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. 南江堂, p.174- p.177, 2021
9. 清家 理. 地域で支える取り組み・連携 - 治し・支える医療にむけて -. 生活習慣病と健康長寿・フレイル対策. 先端医学社, p.125-p.131, 2021
10. 家族支援ガイドライン作成委員会. (清家 理: 委員および執筆) 認知症の人と家族を支えるガイドブック. ワールドプランニング社, P46-p47, p78-p79, p86-p87, p130-p131, p152-p156. 2021.

2：学会発表・講演

1. **清家 理**, 竹内さやか, 萩原淳子, 猪口里永子, 伊藤真奈美, 天白宗和, 溝神文博, 斎藤 民, 鈴木宏和, 堀部賢太郎, 武田章敬, **櫻井 孝**, 荒井秀典. 「MCI および認知症を有する人と家族介護者への心理社会的教育支援プログラムの RCT : Pilot study」. 認知症学会. 2021.11
2. 竹内さやか, **清家理**, 萩原淳子, 猪口里永子, 松田由紀子, 伊藤真奈美, 武田章敬, 櫻井孝, 荒井秀典. 「ICT を活用した認知症の人の家族介護者支援に関する実態調査」. 国立病院総合医学会. 2021.10
3. 清家 理. 「家族・介護者のケアと効果的な手法」. 老人保健施設協会 2021 年度老人管理医師総合診療研修会. WEB 開催. 2021.6

3：その他 公的機関の刊行物への従事、新聞記事

【公的機関への刊行物】

1. 清家 理. こうふくプラン向日 (第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画) 策定. 2021
(向日市『高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会』委員長および向日市『地域包括支援センター運営協議会』会長として従事)

【研究プログラム、カリキュラム、シラバス、教材、e-learning 等への公表】

1. 櫻井孝, **清家理**, 竹内さやか. 第10回 杉浦賞「あした晴れますように」認知症の人の家

族介護者向け教室.杉浦地域医療振興賞・杉浦地域医療振興助成報告集. Journal of The Sugiura Memorial Foundation.Vol.10,14-17, 2021.

【国民との科学・技術対話に対する取り組み】

- 1.清家 理.「認知症の人と介護者に対する非薬物療法的支援の効果検証と新たな効果測定方法」.Health-Tech forum『高齢化社会に向けたサイエンス -認知症の早期発見・進行予防・介護の最前線- 』.2021.9
- 2.清家 理.「あした晴れますように」認知症の人の家族介護者向け教室：過去・現在・未来. 第10 回杉浦地域医療振興賞授賞式講演. 東京. 2021.7

【受賞】

清家 理 竹内さやか, 櫻井孝 他. 杉浦地域医療振興賞 杉浦地域医療振興財団. 2021.7 月
論文4に示した「認知症家族介護者向け教室」が地域医療・ケアへの貢献として評価され、受賞した。(全国から17応募の内、3活動が受賞)

4：社会的活動

1. 向日市地域包括支援センター運営協議会 会長
2. 向日市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会 委員長